

〔 特 集 〕

知ってる？ 子どものアドボカシー

アドボカシーという言葉に出会ったのは、学生の頃のことです。初期研修をすることになる病院の見学中に、小児科部長の先生が「アドボカシーって知ってる？ 子どもの代弁者ということだよ」と教えてくださりました。アドボカシー＝子どもの代弁者というぼんやりとした印象のまま、10 数年過ぎましたが、それについて学ぶ機会はありませんでした。そして 2020 年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行です。そのなかで、学校の一斉休校がいきなり決定されたとき、「子どもって弱いな」と痛感し、同時に頭の中にアドボカシーという言葉が強烈に鳴り響きました。小児感染症専門家として、COVID-19 流行の下、子どものアドボカシーが必要な場面を多く経験しました。すると、いつのまにか、子どものアドボカシーは、小児科医の私にとって何よりも重要な核となり、小児科医のアドボカシーを学ぶために、アメリカに留学する羽目になりました。

そんな私が企画した子どものアドボカシーですが、目論見どおり、皆さん似ているようで少しずつ異なる目線で、豊かにアドボカシーを語ってくれました。幅広く横断的な視点を提示してくれた執筆者の方々のおかげで、ぼんやりですが、アドボカシー＝子どもの代弁者で終わらせない、明日から自分でも実践できる何かに変換できると思います。ぜひ通読して、明日からの生活に役立てていただきたいと思います。

（あいち小児保健医療総合センター総合診療科／伊藤健太）

